

〈鳥海山麓だより 15〉

ムコだから

鈴木京子

今年の冬は雪がかなり少なかった。だけど、だからといって、春がことのほか早く来るわけではないんだナ。タイヤ交換も、カボチャやメロンの植え付けも、稲の種まきも、せいぜい三、四日早まった程度だ。

砂丘の畑作のお手伝いを毎年させてもらっているカワマタ家に、今年初めて稲の種まきに行つた。専業農家のカワマタさん夫婦、公務員の息子、元公務員の叔父さん、入り婿して兼業農家をしているカワマタさんの弟のシヨウジさん、この五人で去年までは種まきした。ただ、ビニールハウスでソネを並べる仕事を担当する妻のケイコさんが、去年はかなりたいへんな思いをしたことと、七十歳近くなった叔父さんも無理がきかなくなったため、今年は「人員増」となったらしい。

カワマタさん、叔父さん、息子、シヨウジさんの四人が、自宅の納屋で種まきし、軽トラック二台に積み込む。一台がいっぱいになるとシヨウジさんがビニールハウスまで運転してきて、ケイコさんと私、シヨウジさんの三人で並べる。私とケイコさんは次のトラックが来るまで小休止できる

が、シヨウジさんは暇なく働く。サボらない。

「あっち（納屋）でもこっち（ビニールハウス）でも働いて。たいへんだから、こっちで少しサボってから行けば？」と私が言っても、声もなく静かに笑うだけで、サボらない。並べ終わるとすぐに納屋に帰っていく。

「シヨウジさん、働き者だねえ〜」

「んだア、ムコださげのっ」

ケイコさんによると、もともと偉ぶるようなことのない次男だったらしいが、「ムコ」として生きるためには「気が利く働き者」である必要があるらしい。

そういえば、人柄を形容するのに「いかにムコさん」「ムコさんって感じの



田植え直後の鳥海山。田植えが終わると、こんなチョボチョボの苗なのに、人間の目には一面の田んぼが黄緑に見えます。写真で表現できないけれど。



Photo : Suzuki Kyoko

人」という表現をよく聞く。仕事先で一緒になったシルバーさんの一人は、先回りしてよく働くことに私が感心したら、「だって、オレ、ムコだものお」と自分で言った。この地域では「入婿が三代続けば蔵が建つ」みたいなことも言う。

その家のために尽くすことを自らに課し、そして世間もそれを期待する——生家を離れ、よその家に入って生きるとはそういうことなのか。だから、たいていの人は「ムコさんだからたいへんだ」と氣遣う。

じゃあ、ヨメは？ ムコ四%、ヨメ九六%が日本の現状ですからネ。